

グローバル・スタディーズ・

イニシアティブ

国際卓越大学院（GSI-WINGS）

（2025年度）

内容

1. 東京大学国際卓越大学院教育プログラムの目的	4
2. 本プログラムの目標	4
3. 求める学生像	4
4. 経済的支援	4
5. 卓越 RA 委嘱期間	5
6. 問い合わせ先	5
GSI-WINGS 必須科目一覧表	7
<GSI-WINGS Qualifying Exam (QE) 概要 >	8
1. Qualifying Exam の 3 要素	8
2. 提出	9
3. QE の結果	9
4. よくある質問	10
<GSI-WINGS Final Exam (FE)および GSI-WINGS の修了要件 >	10
1. Final Examination (FE) の合格要件	10
2. GSI-WINGS の修了要件	10
<インターンシップ>	11
1. 目的	11
2. 概要	11
3. 具体的な活動内容	11
4. 提出書類（様式あり）	11
5. よくある質問	11
<レクチャラーシップ>	12
1. 目的	12
2. 概要	12
3. 提出書類（様式あり） * 2024 年度より様式が変更となりました。	12
4. その他	13
<国際共同研究マネジメント>	13
1. 目的	13
2. 概要	13
3. 提出書類（様式あり）	13
<ランチョンミーティング>	13
<GSI セミナー>	14
<よくある質問 >	14
<GSI-WINGS の単位履修について>	14

＜受給証明書等の入手について＞	15
＜留学・休学・在学期間延長について＞	16
＜授業内容や提出課題について＞	17
＜SR 課題図書について＞	17
＜その他＞	17

東京大学国際卓越大学院教育プログラム
グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ国際卓越大学院
(GSI-WINGS)

1. 東京大学国際卓越大学院教育プログラムの目的

国際卓越大学院教育プログラムは、東京大学の最先端研究と多様な学術の中核として、修博一貫（又は学修博一貫）の学位プログラム制度を基本とした国際的に卓越した大学院教育プログラムを構築するものであり、教育研究を通して優秀な学生を更に育成することにより、新しい価値創造の試みに果敢に挑戦するとともに、他分野や異文化との積極的な対話と協働を進め、その知見を主体的な行動によって社会にフィードバックできる人材（高度な「知のプロフェッショナル」）を輩出することを目的とする。

2. 本プログラムの目標

国際卓越大学院教育プログラムのひとつとして総合文化研究科に設置されたグローバル・スタディーズ・イニシアティヴ国際卓越大学院は、上記の目的を実現するために**極めて優秀な学生を対象に修士課程から博士課程まで 5 年一貫の教育プログラムを実施する**（修士及び博士の学位は、所属する専攻・プログラムにおいて取得する）。本プログラムは、人文社会科学の先端知を学際的・広域的に習得した上で、多言語・多文化への深い理解を有し、グローバル化により人類社会が直面する諸問題の解決に、社会の多様なセクターと協力しリーダーシップをもって取り組む意欲と能力をもつ「知のプロフェッショナル」を養成することを目標とする。

3. 求める学生像

所属専攻・プログラムの修了要件を満たし学位取得を目指しつつ、さらに、本プログラムの研究教育活動に積極的に参加し、上述の「知のプロフェッショナル」となることを志す者。

4. 経済的支援

本プログラム生は、卓越リサーチ・アシスタント（卓越 RA）として、修士課程においては最大 21 カ月、博士課程においては最大 36 カ月研究業務を委嘱され、下記の月額が支給される（注 1 及び注 2）。ただし、他の奨学金等の受給状況等によって、減額されること

がある。

修士課程 15 万円（予定）

博士課程 18 万円（予定）

本学が提供する各種奨励金、フェローシップ、リサーチ・アシスタント（RA）との重複受給はできないが、ティーチングアシスタント（TA）、ティーチングフェロー（TF）は可とする。日本政府奨学金留学生及び交流協会奨学金留学生には、卓越 RA の委嘱は行わない。授業料免除（延納・分納）は申請可とする。

日本学術振興会(JSPS)特別研究員(DC1、DC2)に採用された場合は、卓越 RA の資格を失うが、本プログラムの履修を継続することになる。詳細は、GSI 事務室(下記 9. (1))まで問い合わせること。

- (注1) 税法上、給与所得として課税され、所得税を源泉徴収のうえ、支給することとなる。そのため、年末調整や確定申告を行う必要がある。
- (注2) 月から 12 月までの年収が一定の金額を超える場合、所得税法上の扶養控除を受けることができないことや、保護者や配偶者等の健康保険の被扶養者から外れることもあるので十分に注意すること。なお、当該年収に応じて、次年度に住民税が課税される場合もある。

5. 卓越 RA 委嘱期間

本プログラム生の修士課程における卓越 RA の委嘱期間は、採用年度の 7 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

本プログラム生の博士課程における卓越 RA の委嘱期間は、博士後期課程に進学後の 4 月から 36 カ月間とする。進学先は、修士課程時に在籍していた専攻・プログラムを念頭に置いているが、総合文化研究科の文系 4 専攻および「人間の安全保障」プログラムまたは人文社会系研究科へと進学先を変更した場合でも、卓越 RA の委嘱を継続できる。それ以外の博士後期課程に進学・入学した場合は、プログラムの履修を継続することはできない。

進学先の変更を希望する場合は、QE の実施前までに事務局に伝えてください。

6. 問い合わせ先

- (1) グローバル・スタディーズ・イニシアティヴ（GSI）事務局

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科 14 号館 205 号室

電話 03-5465-8742

Email: contact@gsi.c.u-tokyo.ac.jp

- ・ GSI-WINGS の修了要件
- ・ 授業内容や提出課題
- ・ SR 課題図書
- ・ インターンシップ、レクチャーシップ、国際共同研究マネージメント実施への相談
- ・ QE や FE について
- ・ GSI 主催の各種イベント（ランチョンミーティングや GSI セミナー）

(2) 総合文化研究科教務課総合文化大学院チーム

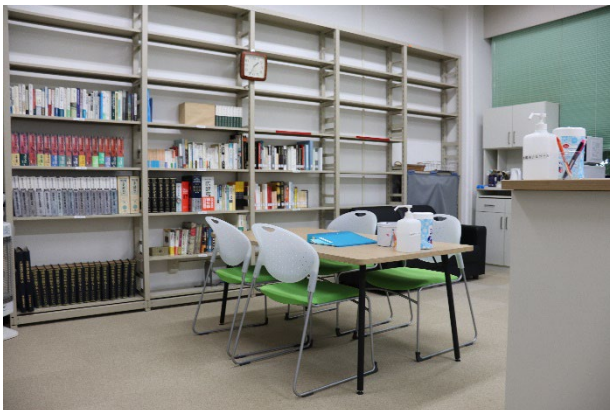
〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学大学院総合文化研究科アドミニストレーション棟 1 階 5 番窓口

電話 03-5454-6050(6049)

- ・ 単位履修（成績照会を含む）
- ・ 出願、選抜結果発表
- ・ 卓越 RA 制度（併給条件を含む）
- ・ 受給証明書等の発行
- ・ 留学、休学、在学期間延長の手続き

* 大学院チーム窓口で相談される場合、予めメールで来室日時をご連絡ください。



GSI-WINGS 必須科目一覧表

授業科目等	単位数	履修方法	備考
【基礎科目】			
Supervised Readings I	2	選択必修 2 単位	修士課程で履修
Supervised Readings II	2		
Supervised Readings III	2		
Supervised Readings IV	2		
研究技法トレーニング I	2	選択必修 2 単位	
研究技法トレーニング I -A	1		
研究技法トレーニング I -B	1		
研究技法トレーニング II	2		
研究技法トレーニング II -A	1		
研究技法トレーニング II -B	1		
研究技法トレーニング III	2		
研究技法トレーニング IV	2		
研究技法トレーニング V	2		
研究技法トレーニング V-A	1		
研究技法トレーニング V-B	1		
【専門科目①】			
グローバル・スタディーズ俯瞰論 I	2	選択必修 2 単位	修士課程もしくは 博士課程（～ D3）で履修
グローバル・スタディーズ俯瞰論 II	2		
グローバル・スタディーズ俯瞰論 III	2		
グローバル・スタディーズ俯瞰論 IV	2		
グローバル・スタディーズ解析論 I	2	選択必修 2 単位	
グローバル・スタディーズ解析論 II	2		
グローバル・スタディーズ解析論 III	2		
グローバル・スタディーズ解析論 IV	2		
【専門科目②】			
【インターンシップ】 グローバル・スタディーズ実験実習	2	必修	博士課程での履 修を推奨する が、修士課程に 於いても履修可 能
【レクチャーシップ】 グローバル・スタディーズ教育実習	2	必修	
【国際共同研究マネジメント】 グローバル・スタディーズ国際共同研究実 習	2	必修	

* プログラム修了要件

所属する専攻・プログラム等の修了要件に加えて、必修科目、選択必修科目から合計 14 単位以上を取得し、QE および FE に合格すること。

<GSI-WINGS Qualifying Exam (QE) 概要>

1. Qualifying Exam の 3 要素

Qualifying Exam（以下 QE）は以下の 3 つの要素から構成される。

1. トレーニング・プログラム成果報告書
2. 日本学術振興会特別研究員 DC1 申請書類と選考結果
3. 各所属専攻における修士修了審査の成績および進学先専攻における博士進学（または入学）審査の成績

1.-(1) トレーニング・プログラム成果報告書

トレーニング・プログラム成果報告書の内容は以下 a, b のどちらか、もしくは両方を論じたものとする。

- a. Supervised Readings や研究技法トレーニング科目で学んだことが、提出した修士論文にどのように関連付いているか
- b. Supervised Readings や研究技法トレーニング科目で学んだことを、博士課程での研究計画にどのように役立てているか

博士課程から GSI-WINGS に所属する履修生は、上記の b. に沿った内容とする。

形式は自由とする。文字数は 4000 字程度とし、図表を用いても構わない。

氏名、学生証番号、所属する研究科と専攻・プログラム、学年（M2、D1 等）を 1 頁目の冒頭に記すこと。

トレーニング・プログラム成果報告書は、①学生の指導教員と②所属専攻（総合文化研究科所属の履修生の場合）または研究科（人文社会系研究科所属の履修生の場合）の運営委員の計 2 名が評価する予定であるが、必要に応じて Supervised Readings や研究技法トレーニング担当の教員などが評価する場合もあり得る。

1.-(2) 日本学術振興会特別研究員 DC1 申請書類と選考結果

GSI-WINGS 履修生は、日本学術振興会特別研究員 DC1・DC2 への申請が義務付けられている。申請は、例年 4 月から 6 月上旬に電子申請システムを通じて行う。選考結果は例年 10 月上旬から 1 月上旬に開示される。補欠者として採用される場合は、2 月下旬頃に通知がある。

QE の一要素として、申請書と選考結果の 2 点を提出する。

修士課程から GSI-WINGS に所属する履修生は DC1 の申請書を、博士課程から GSI-WINGS に所属する履修生は DC2 の申請書を提出する。ただし、博士課程から GSI-

WINGS に所属する履修生の中で既に DC 1 に採択されているものは、その際の申請書と採択通知を提出すればよい。

特別研究員 DC1・DC 2 に関する最新情報については、日本学術振興会のホームページ等を参照すること。

1.-(3) 修士修了審査および博士進学（または入学）審査の成績

修士修了審査と博士進学（修士課程時に在籍していた研究科または専攻とは異なる研究科・専攻の博士課程に進む場合は入学）の際の論文審査や口述審査も QE のひとつの要素となります。その審査結果・成績を、履修生が入手して提出する必要はありません。

2. 提出

2.-(1) 提出時期

修士課程から GSI-WINGS に所属する履修生：修士論文提出後の 1 月末日まで（末日が週末に当たる場合は直前の金曜日まで）

博士課程から GSI-WINGS に所属する履修生：D1 在籍時の 1 月末日までに（末日が週末に当たる場合は直前の金曜日まで）

2.-(2) 提出場所

GSI 事務室（駒場キャンパス 14 号館 2 階 205 号室）

2.-(3) 提出物

以下 A、B、C を部ごとにまとめてクリアフォルダに入れて提出すること。

A. 「トレーニング・プログラム成果報告書」 3 部

B. 「特別研究員 DC1 または DC 2 申請書」 3 部

C. 「特別研究員 DC1 または DC 2 選考結果（電子申請システムのコピー）」 3 部（補欠者として採用される場合は 2 月下旬頃に通知があるが、この通知が届いた者は至急その通知を 3 部提出すること。）

3. QE の結果

3.-(1) QE の評価

QE を構成する 3 要素を総合的に評価する。

3.-(2) QE の評価とその影響の可能性

GSI-WINGS は修博一貫のプログラムであり、QE はその過程のひとつのステップにすぎません。しかし、教育の質保証を強く求められる国際卓越大学院では、成績が芳しくない状態が続く場合には、奨励金または卓越 RA（リサーチ・アシスタント）の支給が減額さ

れるので注意すること。

4. よくある質問

Q. QE の評価が低かった場合には、博士課程に進学できませんか？

A. 進学を希望する専攻の試験に合格すれば博士課程に進学することはできます。

Q. HSP の履修生ですが、QE の評価は誰がすることになりますか？

A. HSP の学生も総合文化研究科の文系四専攻のどれかに所属する形をとっています。その専攻の運営委員と、学生の指導教員が評価を担当する形をとるのが通常です。

Q. 今年度修士課程を修了せず、修了時期を一年延長したいと考えています。その際、プログラム成果報告書等は提出するのでしょうか？また今年度の QE (Qualifying Exam) の実施はあるのでしょうか？

A. 修士課程の修了時に QE を実施しますので、プログラム成果報告書等は、修士論文提出後に提出してください。QE の構成要素である学振 DC への出願は、修士論文提出年度に行ってください。

<GSI-WINGS Final Exam (FE)および GSI-WINGS の修了要件>

1. Final Examination (FE) の合格要件

- a. 所属する専攻・プログラムにおける修士課程を修了する。
- b. 修士課程在籍中に基礎科目「Supervised Readings」から 2 単位以上、「研究技法トレーニング」から 2 単位以上を取得し、Qualifying Examination (QE) に合格する。
- c. 本プログラム在籍中 (D3 迄) に「グローバル・スタディーズ俯瞰論」から 2 単位以上、「グローバル・スタディーズ解析論」から 2 単位以上を取得する。
- d. 本プログラム在籍中に「インターンシップ」2 単位、「レクチャーシップ」2 単位、および「国際共同研究マネジメント」2 単位を取得する。
- e. D3 生研究発表会で博士論文について報告する。
- f. 博士課程に GSI-WINGS 生として研究・教育・社会貢献した事柄について、自由な形式で 2000 字以上に纏める。

* D3 生研究発表会は、12 月初旬頃の土曜日に行われる予定です。

2. GSI-WINGS の修了要件

- a. FE に合格する。
- b. 所属する専攻・プログラムにおける博士論文審査に合格する。

その他：

・プログラムを修了した学生については、当該プログラムの主となる研究科等の長から総長に修了した旨の報告があった際は、修了証が交付される。

また、学位記にプログラム修了の旨が付記される。

・博士課程を単位取得済み満期退学し、3 年以内に課程博士を取得した場合、かつ GSI-WINGS の科目を博士課程在学中に全て履修している場合、GSI-WINGS 修了として認められる。

<インターンシップ>

科目名：「グローバル・スタディーズ実験実習」（2 単位・必修） D1・D2 履修推奨

1. 目的

インターンシップ活動を通じ、学外と連携しながら問題解決に重点を置いた多角的な研究活動をおこなう能力を培うことを目的とします。

2. 概要

D1 年次の履修を推奨、かつインターンシップへの従事時間は最低 40 時間を目安としますが、科目の性質上、弾力的な運用をおこないます。

履修者自身のイニシアティヴが重要なのはもちろんですが、各種協定や交流プログラムなどの東京大学が有する既存の研究リソースを活用することも推奨されます。また、GSI-WINGS の主旨に合致していれば公募型のインターンシップを利用することも可能です。

3. 具体的な活動内容

インターンシップの受入先は原則として学外機関（国内外の研究機関、公的機関、文化施設、企業、NGO/NPO 等）としますが、いずれにせよ個別的な研究成果を挙げることも、広く問題解決、また社会連携を視野に収めた実践的な研究能力を養うことを重点化した活動が望まれます。

4. 提出書類（様式あり）

インターンシップ計画書

インターンシップ成果報告書（インターンシップ担当者に確認の上、承認印をいただく）

5. よくある質問

Q. 海外の日本語学校、日本の学校等での講師経験もインターンシップに含まれますか？

- A. 単に講義をする、というだけではインターンシップとして認められません。教材を作る、カリキュラムを考案するなど、運営に携わる場合には認められる可能性があります。指導教員、担当教員と相談の上で決定します。
- Q. GSI-WINGS プログラム必修科目のインターンシップは、原則的に無給が条件でしょうか？
- A. 東京大学 GSI-WINGS の定める受給上限額を超えなければ、インターンシップで給与を得ることは可能です。学振 DC 採用者（卓越 RA に委嘱されない）の場合は、GSI-WINGS の規定は適用されず、学振の規定のみが適用されます。

<レクチャーシップ>

科目名：「グローバル・スタディーズ教育演習」（2単位・必修）D2・D3 履修推奨

1. 目的

トレーニング・プログラム、インターンシップ等で習得した知識と実践体験を、GSI の学部教育に還元することを目的とします。「ティーチング・フェロー（TF）」制度を活用して「国際研修」等の教養学部の教育プログラムを担当します。「国際研修」の事前学修や事後の振り返り、あるいは現地でのフィールドワークの指導等、多岐にわたる学部生教育に携わることを通じて、自らの研究へのフィードバックを得て、将来の教育のための基盤を形成します。

2. 概要

教養学部前期課程で開講される「国際研修」、東アジアリベラルアーツイニシアティブ（EALAI）の短期留学プログラムや、全学交換留学生（USTEP 生）受入れプログラム（GSA: Global Studies in Asia）・グローバル・スタディーズ学融合プログラムを担当し、事前学習、事後の振り返り、フィールドワークの指導を経験し、その活動について担当教員と議論します。

2023 年度からは「GSI-WINGS x GS 共催セミナー」での講義を行う事によっても単位認定がされています。

3. 提出書類（様式あり）＊2024 年度より様式が変更となりました。

レクチャーシップ成果報告書（担当教員の確認と評価が必要）

*GSI-WINGS x GS 共催セミナーを履修の場合は以下の書類を追加で提出ください：

- ・セミナーのリアクションペーパーへの回答
- ・シラバス（15 回分）、および行ったセミナーの位置付けについての説明

*提出書類は全て英語で作成してください。

4. その他

指導教員、GSI-WINGS 科目担当教員とあらかじめ相談の上、履修をお願いします。教育が海外で行われる場合には、旅費が GSI より支給される場合があるので、時間的余裕を持って履修前に相談してください。

<国際共同研究マネジメント>

科目名：グローバル・スタディーズ国際共同研究実習（2単位・必修） D2・D3 履修推奨

1. 目的

研究者として将来国内外で活躍するためには、個人として研究を進めるだけでなく、国内外での共同研究を通じて共同作業を進めることが不可欠です。例えば研究に必要なデータ収集や未公開資料の利用は、個人では難しく、共同研究として行うことが増えています。

2. 概要

本科目では、そのような共同研究のマネジメントを学ぶため、東大や国内外で開催されるさまざまな国際会議（科研、各専攻の企画、GSI など）のマネジメントに加わり、共同研究の実際の運営を学ぶことで、将来の研究キャリアの基礎作りを目指します。さらに、学生自身のイニシアティブによる国際共同研究も奨励します。上記活動については、質的評価に基づいて、資金面でも可能な限り積極的に支援していく方針です。

3. 提出書類（様式あり）

国際共同研究マネジメント計画書

国際共同研究マネジメント成果報告書

*インターンシップ、レクチャーシップ、国際共同研究マネジメントを行う際は、各担当の先生に相談をしてください（cc に事務局を入れてください）。

<ランチョンミーティング>

金曜日の昼休み（12:15-12:50）にオンラインで開催されます。毎週、一名ないし二名の学生に 5～10 分程度で報告してもらい、そのあと 10～15 分の質疑応答が続きます。

画面をオフにして食事を取ることも可能で、二限が延長して遅れて参加する、ないし三限の移動で早めに退出していただいても構いません。

可能な限り、セメスター毎に各自一回発表していただくことが原則となります。なお、本企画には SPRING-GX の学生も参加します。活発な議論を期待しています。

<GSI セミナー>

GSI セミナーとは、GSI キャラバンの各プロジェクトが開催する研究会やシンポジウムの中で、GSI-WINGS 生に聴講を薦めています（とくに課題を提出する必要はありません）。GSI のホームページ上で、対象となるイベントの情報を確認できます。必要に応じて、事前の参加申し込みや主催者への連絡等を行ってください。

<よくある質問>

Q. 留学・病気以外の理由で休学した場合、卓越 RA は継続できますか？

A. 休学期間は卓越 RA を解任します。また、復学後も卓越 RA を委嘱しません。

Q. 日本学生支援機構奨学金と民間の奨学金を受給予定ですが、給付金の合計額によって奨励給付金が減額される可能性はありますか？

A. 教務課総合文化大学院チーム（daigakuin.c@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）へお問い合わせください。

Q. 東大内でのアルバイトとの併給（東大ピアサポートルーム等含む）は可能ですか？

A. 大学院チームへお問い合わせください。

Q. 大学や国を資本としない副業（アルバイト）は可能ですか？

A. 学振 DC などと異なり、大学や国を資本としない副業を禁じる規則はありませんが、大学院チームに詳細をご確認ください。

Q. 奨励給付金の振込み開始予定日はいつですか？

A. 7 月委嘱の場合は、8 月の振込みとなります。10 月委嘱の方は大学院チームへお問い合わせください。

<GSI-WINGS の単位履修について>

(1) 「Supervised Readings」は専攻ごとに履修の制限はない。また、他専攻の先生が開講している授業も履修可能であり、GSI-WINGS 修了要件としての単位に含めることが出来る。このことは、「研究技法トレーニング」「グローバル・スタディーズ俯瞰論」「グローバル・スタディーズ解析論」にも該当する。

(2) GSI-WINGS への登録を希望して必修科目「Supervised Readings」など GSI-WINGS のプログラム科目を履修し、プログラム履修生となれなかった場合には、その単位は

自身の所属する専攻・プログラムから履修を求められている単位（例えば総合文化研究科の文系 4 専攻では 16 単位）のうちに含めることはできないが、他研究科・他専攻科目と同じ扱いとなり、修士修了に必要な 30 単位に含めることができる。

GSI WINGS の必要単位は 14 単位で、修士課程の必須科目は「Supervised Readings」と「研究技法トレーニング」となる。

「グローバルスタディーズ俯瞰論」、「グローバルスタディーズ解析論」は博士課程（D3）までに履修可能であり、「グローバルスタディーズ実験実習」、「グローバルスタディーズ教育演習」、「グローバルスタディーズ国際共同研究実習」に関しては、博士課程の S か A セメで履修可能。

- (3) 修士課程の在籍期間が当初の卓越 RA 委嘱期間を超えて、委嘱が解除された場合でも、修士修了・博士進学時の QE（Qualifying Exam）で合格となれば、博士課程進学後に卓越 RA に再委嘱されます。その後、プログラム科目を履修し、博士論文を提出して博士課程を修了し、QE に合格すれば、GSI-WINGS プログラム修了を認定されます。学振 DC に採用されなくても、GSI-WINGS プログラムの履修＝卓越 RA 委嘱となります。QE で認められなければ、プログラム継続はできません。
- (4) 人文社会系研究科修士課程から総合文化研究科博士課程へ進学する場合、GSI-WINGS プログラムの継続履修および卓越 RA 委嘱は可能（募集要項 4 ページ目をご参照）。
- (5) 学生個人の単位や成績に関する問い合わせは個人情報となるため、メールや電話で答えることが出来ない。予めメールで用件と来学日時を連絡した上で、大学院チーム窓口で直接相談してください。
- (6) GSI-WINGS のプログラム単位を取得しない場合、既に支払われた卓越 RA 費の返還を求める場合があります。本プログラムは修博 5 年一貫のプログラムとなる為、プログラムの途中で辞退をすることがある場合、理由によっては同様の措置が取られます。

<受給証明書等の入手について>

- (1) 授業料免除申請等のための卓越 RA 奨励給付金の受給証明書（採用期間・支給期間・金額を記載）を発行してもらえ。他の証明書と同様に、総合文化大学院チーム（5 番窓口）に来て、交付願に記入のうえ提出してもらう。用紙は、総合文化大学院チーム HP（左肩の「証明書発行」メニューから進む）にも載っている。

- (2) 卓越 RA 奨励給付金は、給与所得として課税され、所得税を源泉徴収のうえで支給することとなるため、年末調整や確定申告を行う必要がある。毎年 1 月末から 2 月初旬に、経理チームから源泉徴収票が発行され、大学院チームなどの担当部署から本人に渡すことになる予定。

<留学・休学・在学期間延長について>

- (1) 在学の身分のまま留学した場合に、その期間に GSI-WINGS の科目の単位を取得することは可能（これは GSI-WINGS の博士課程科目であるインターンシップや国際共同研究マネジメントなどの科目はキャンパス内での通常の講義を想定しておらず、学外機関での科目の実施、活動報告書による評価等も想定しているため）。
- (2) 東京大学の全学交換留学を利用した場合、修了年度が一年遅れてしまうが、1 セメスター以上の留学による留年であれば、修了時期の延長は可能。その場合でも、卓越 RA 制度の委嘱期間は修士課程が 2 年間、博士課程が 3 年間となる。委嘱期間の延長はない。修士課程在籍の場合、帰国後に QE（Qualifying Exam）を受けて合格すれば、GSI-WINGS プログラムを博士課程で続けることは可能。
- (3) 留学（在学の身分のまま留学し、21 ヶ月を超えて在学した場合等）により、卓越 RA 奨励給付金の支給が無くなる期間に関して、他の国の予算を原資とした奨学金への申請は可能。
- (4) 休学期間中は卓越 RA の委嘱を解任し、奨励給付金も支給しない。休学を希望する場合は、GSI 事務局へ予め連絡の上、手続きの詳細を大学院チームへお問い合わせもらう。
- (5) 例えば今年度中に修士論文を完成させることが困難なため、修士課程の在学期間を延長する予定で、来年度に修士論文を提出し、かつ博士課程に進学した場合（在学期間を延長または休学した場合でも）、博士課程進学時の QE の成績でプログラム継続が認められれば、博士課程で卓越 RA の再委嘱が行われる。
- (6) 在学延長、休学、留学などを行う際には、期間と理由を必ず GSI 事務局まで伝えてください（留学の場合は留学先、期間、学位取得について）。

<授業内容や提出課題について>

Supervised Readings の履修ガイダンスについては、東京大学授業カタログ（シラバス）を参照のこと。課題レポートの内容については、授業の際に担当教員に直接聞いてください。

<SR 課題図書について>

Supervised Readings の課題図書は、14 号館 GSI 事務室および駒場図書館に e-book（電子書籍）の蔵書があるので、自己負担で購入しなくても良い。駒場図書館ホームページ上の E-journal & E-book Portal で検索可能。大学図書館や公共図書館等を通じての入手が困難な場合には、GSI 事務局まで相談のこと。

GSI 図書室

開室時間：火、水、木 10:00~11:30, 14:00~16:00

*初回時には登録が必要となる為、身分証をお持ちください。

<その他>

- (1) 投稿論文に GSI-WINGS の卓越 RA の謝辞記載は必要ない。
- (2) 学振の申請が間に合わなかった場合でも、GSI-WINGS では学振に申請しなければ質保障のため QE/FE で不合格になる。但し、SPRING GX 所属の GSI-WINGS では SPRING GX の質保障の審査はしていないため、その限りではない（Spring GX の事務所に問い合わせてもらおう）。
SPRING GX 事業統括オフィス spring-gx-application.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
- (3) WINGS 生がインターンシップやレクチャラーシップとして TF・TA 的な役割を果たす場合の対価（謝金）は、国外では発生する。また、渡航費は GSI プログラムより一部支給される。詳細は事務局まで。